

令和5年度
全国学力・学習状況調査結果及び対策
[令和5年4月調査]



令和5年11月
鹿児島市教育委員会

目 次

I	令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果及び対策の見方	1
II	令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果（市の概要）について	
1	調査の概要	2
2	教科に関する調査結果	2
3	質問紙調査結果	3
4	正答数分布グラフ（小学校）	4
5	正答数分布グラフ（中学校）	5
III	学力調査分析（国語、算数・数学、英語）	
1	調査の結果から見える本市国語科教育の課題について	6
2	調査の結果から見える本市算数・数学科教育の課題について	8
3	調査の結果から見える本市英語教育の課題について	10
IV	児童生徒及び学校に対する質問紙調査＜抜粋＞	12

I 令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果及び対策の見方

本調査の結果及び対策は、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における鹿児島市に関するものです。ついては、各学校において、本冊子を活用し、本市全体の状況を把握するとともに、全市的な傾向との比較・分析などを通して自校の課題を明確にし、今後の個に応じたきめ細かな指導や問題解決的な学習活動など、教員の指導方法の工夫や児童生徒の学習状況の改善を図ってください。

1 本報告書の構成について

概要は、次のような構成になっています。

I 令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果及び対策の見方
II 令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果（市の概要）について
1 調査の概要
2 教科に関する調査結果
3 質問紙調査結果
4 正答数分布グラフ（小学校）
5 正答数分布グラフ（中学校）
III 学力調査分析（国語、算数・数学、英語）
1 調査の結果から見える本市国語科教育の課題について
2 調査の結果から見える本市算数・数学科教育の課題について
3 調査の結果から見える本市英語教育の課題について
IV 児童生徒及び学校に対する質問紙調査（抜粋）

2 本報告書の活用について

(1) 調査の目的や内容、各教科の平均正答率、質問紙調査の結果等について知りたいとき

「II 令和5年度『全国学力・学習状況調査』結果（市の概要）について」(2ページ)を御覧ください。調査の目的や調査内容、各教科の平均正答率、質問紙調査結果において特徴的なもの等について説明してあります。また、各教科ごとの正答数分布グラフ（4、5ページ）も御覧ください。分布の状況などを見ることにより、詳しく集団の状況を把握することができます。

(2) 本市の各教科の課題や改善のポイント等を知りたいとき

「III 学力調査分析」(国語6ページ、算数・数学8ページ、英語10ページ)を御覧ください。小・中学校における課題、全体を通して特に課題となった設問の分析と対策を説明しています。改善のポイントについても、小中共通や小学校、中学校別に説明してあります。

(3) 児童生徒の学習状況を知りたいとき

「IV 児童生徒及び学校に対する質問紙調査〈抜粋〉」(12～21ページ)を御覧ください。児童生徒に対する質問紙については12ページ以降、学校に対する質問紙については16ページ以降を御覧ください。「基本的な生活習慣等に関すること」、「学習習慣等に関すること」等のカテゴリーにまとめています。本市の特徴的なものを、関係付けられるカテゴリー別に示すことにより、本市の小・中学校や児童生徒のよい点や課題等について捉えやすくしました。また、本市の「よく行った」、「どちらかといえば行った」等の肯定的な回答をした割合と、肯定的な回答のうち「よく行った」と回答した割合の二つの数値を示し、全国との比較をしています。各学校の結果と比較できるように、表に貴校の結果も記入できる欄を設けています。既に詳細な分析は各学校で進められているところですが、是非、貴校のよい点や課題等を記入していただき、貴校の状況を確認してください。さらに、各カテゴリーごとに設けた口の枠内には、貴校の「分析・対策」を記入することにより、今後の取組を明確にしてください。

(4) 授業改善について知りたいとき

「R5年度 鹿児島市みんなで実践～令和4年度鹿児島学習定着度調査の結果をもとに～」と「令和2年度改訂版かごんまよか授業」(鹿児島市教育委員会)を活用してください。

Ⅱ 令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果（市の概要）について

鹿児島市教育委員会学校教育課

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ウ 上記のア、イの取組等を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の実施学年・実施学校数・実施児童生徒数

学校種	実施学年	実施学校数			実施児童生徒数			
		本市	県(位)	全国(位)	教科	市	県(位)	全国(位)
小学校	6年生	75校	471校	18,878校	国語	5,224人	13,670人	964,177人
					算数	5,229人	13,674人	964,350人
中学校	3年生	39校	211校	9,778校	国語	4,963人	13,095人	892,738人
					数学	4,972人	13,103人	893,114人
					英語	4,977人	13,131人	893,528人

(3) 調査の内容

ア 教科に関する調査（調査対象：小学校6年生、中学校3年生）

〔国語、算数・数学、英語〕

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおり。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

イ 質問紙調査（調査対象：小学校6年生、中学校3年生、小・中学校）

〔生活習慣や学習環境等に関する調査〕

(4) 調査日 令和5年 4月18日（火）

2 教科に関する調査結果

（平均正答率％）

学校種	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
本市	6.8 (9.5/14問)	6.2 (10.0/16問)	7.2 (10.8/15問)	5.0 (7.5/15問)	4.6 (7.9/17問)
県	6.7 (9.4/14問)	6.1 (9.8/16問)	7.0 (10.5/15問)	4.8 (7.2/15問)	4.2 (7.2/17問)
全国	6.7.2 (9.4/14問)	6.2.5 (10.0/16問)	6.9.8 (10.5/15問)	5.1.0 (7.6/15問)	4.5.6 (7.7/17問)

（平均正答率・・・児童生徒の正答数の平均を設問数で割った値の百分率）

小・中学校国語、中学校英語においては、県・全国平均を上回った。小学校算数及び中学校数学は、県平均は上回ったが、全国平均を下回った。

3 質問紙調査結果

(児童生徒及び学校に対する質問から特徴的なものを抜粋、単位は%)

(1) 児童生徒に対する質問 【質問数 小学校59問 中学校72問】

(質問文は一部省略)

将来の夢や目標を持っていますか ※ 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合		小学校	中学校
	本市	66.9	84.6
	県	68.0	85.7
	全国	66.3	81.5

読書は好きですか ※ 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合		小学校	中学校
	本市	77.7	73.2
	県	77.0	70.9
	全国	71.8	66.0

自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか ※ 「発表していた」「どちらかといえば、発表していた」と回答した児童生徒の割合		小学校	中学校
	本市	56.4	49.8
	県	58.6	51.9
	全国	63.7	62.1

国語、算数・数学、英語の勉強は好きですか。 ※ 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合	国	本市	64.5	58.8
		県	63.7	59.3
		全国	61.5	61.4
	語算・数英	本市	61.9	59.6
		県	62.3	58.1
		全国	61.4	56.7
	語	本市	69.5	52.0
		県	70.1	51.7
		全国	69.3	51.9

本市において、「将来の夢や目標を持っている」「読書が好き」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ高い。
「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」と回答した割合は、小学生、中学生ともに全国に比べ低い。
「国語を好き」と回答した中学校の割合は、全国に比べ低いが、他の教科は高い。

(2) 学校に対する質問 【質問数 小学校81問 中学校89問】 (質問文は一部省略)

将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか ※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合		小学校	中学校
	本市	92.0	100
	県	96.4	99.5
	全国	86.5	98.6

各教科で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか ※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合		小学校	中学校
	本市	85.4	76.9
	県	92.0	83.9
	全国	85.6	78.6

自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童・生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか ※ 「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した学校の割合		小学校	中学校
	本市	76.0	43.6
	県	71.3	56.9
	全国	45.8	44.2

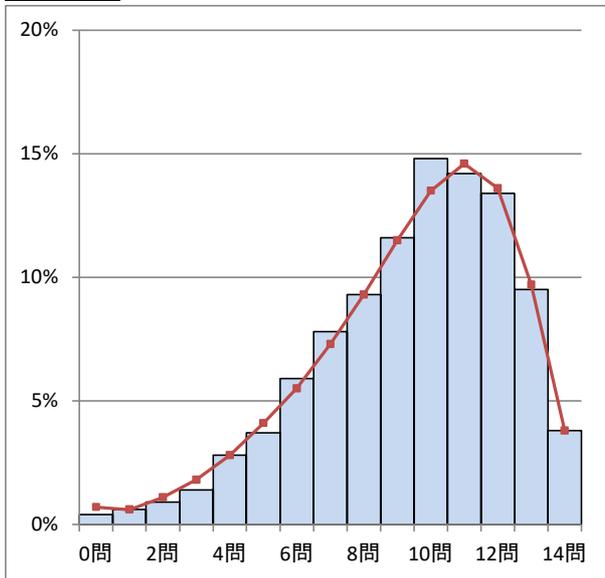
「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行った」と回答した割合は、小学校、中学校ともに全国に比べ高い。
「各教科で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた」と回答した学校の割合は、全国に比べ、小学校・中学校共に低い。
「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、PC・タブレットなどのICT機器を使用した」と回答した学校の割合は、全国に比べ、小学校は高く、中学校は低い。

4 正答数分布グラフ(小学校)

(※横軸: 正答数、縦軸: 児童生徒数の割合 ※棒グラフ: 鹿児島市、折れ線グラフ: 全国)

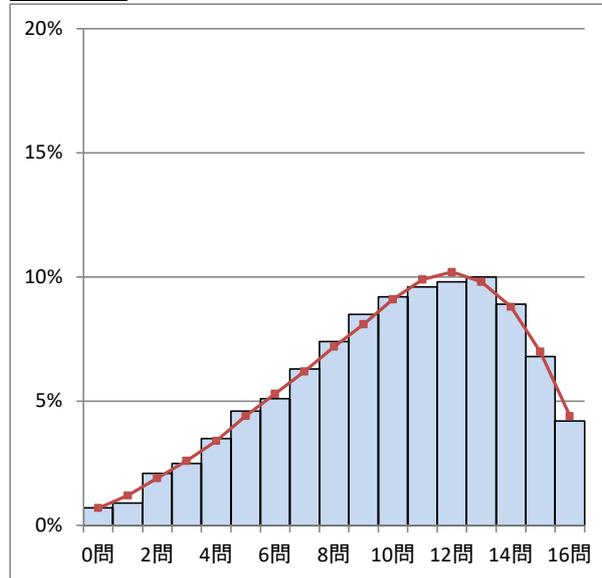
小学校

国語



	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
本市	9.5 / 14	68	10	3.1
全国	9.2 / 14	65.6	10	3.3

算数



	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
本市	10.2 / 16	64	11	3.4
全国	10.1 / 16	63.2	11	3.6

〈用語の説明〉

中央値	集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。平均値とともに集団における代表値として捉えられる。
標準偏差	集団のデータを平均値からの離れ具合(散らばりの度合い)を表す数値。標準偏差が小さいときは平均値のまわりにデータが集まっていて、大きいときは散らばっているといえる。また、標準偏差が0であるということは、ばらつきがない(データの値が全てが同じ)ことを意味する。

※ [平均値-標準偏差]以上[平均値+標準偏差]以下にデータ全体の約68%が含まれているといわれています。

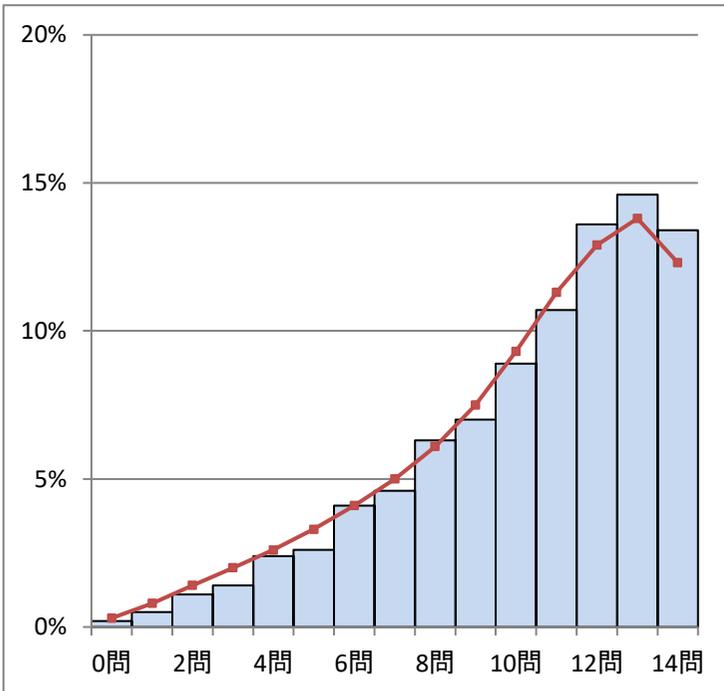
例えば、本市の小学校国語について、平均正答数が9.5、標準偏差が3.1であるので、6.4問(約6問)から12.6問(約13問)の間に、本市の小学6年生の約68%が含まれているということがいえます。

5 正答数分布グラフ(中学校)

(※横軸:正答数、縦軸:児童生徒数の割合 ※棒グラフ:鹿児島市、折れ線グラフ:全国)

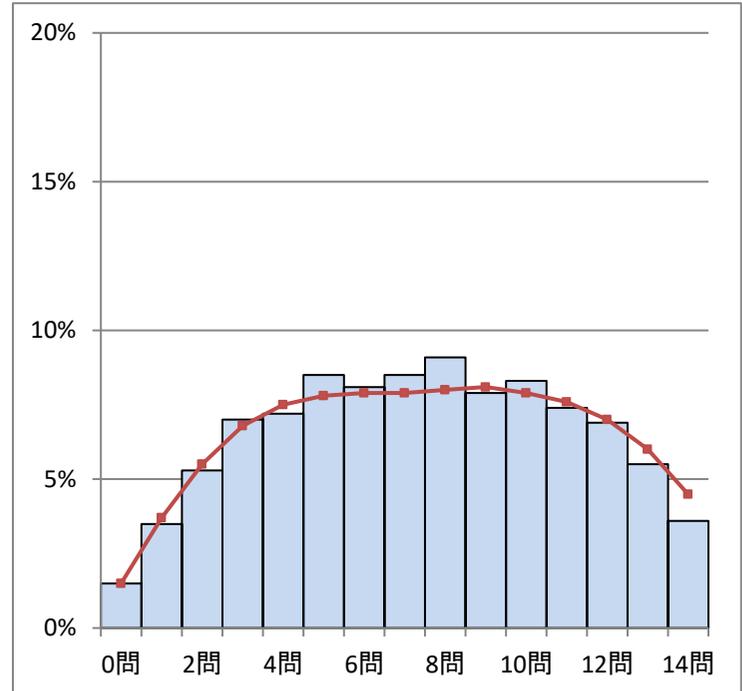
中学校

国語



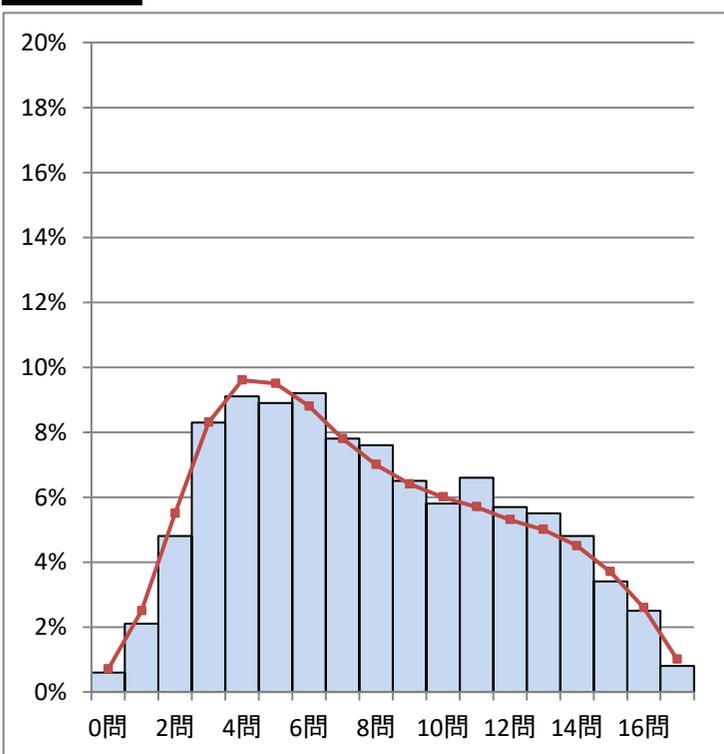
	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
本市	10.1 / 14	72	11	2.9
全国	9.7 / 14	69.0	10	2.9

数学



	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
本市	7.1 / 14	51	7	3.5
全国	7.2 / 14	51.4	7	3.6

英語



	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
本市	10.7 / 21	51	11	4.1
全国	10.4 / 21	49.3	10	4.1

〈用語の説明〉

中央値	集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。平均値とともに集団における代表値として捉えられる。
標準偏差	集団のデータを平均値からの離れ具合(散らばりの度合い)を表す数値。標準偏差が小さいときは平均値のまわりにデータが集まっています、大きいときは散らばっているといえる。また、標準偏差が0であるということは、ばらつきがない(データの値が全てが同じ)ことを意味する。

※ [平均値-標準偏差]以上[平均値+標準偏差]以下にデータ全体の約68%が含まれているといわれています。

例えば、本市の中学校国語について、平均正答数が10.1、標準偏差が2.9であるので、7.2問(約7問)から13問の間に、本市の中学3年生の約68%が含まれているといえることがいえます。

【中学校 問題3(1)】
 《文脈に即して正しい漢字を書く問題》
 二 ―― 線部のひらがな（おし量って考える）を漢字に直し、楷書で丁寧に書きなさい。



3. 調査結果
 ■「判じ絵」とは何か
 「判じ絵」とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解読して楽しむものである。
 (ア) ただし、【図1】のように、描かれているものと意味しているものが異なるため、解読する際には、「判じる」こと、つまり、知っていることをもとに「おし量って考える」が必要になる。(イ) 言ってみれば、なぞなぞやクイズのようなものなのである。(ウ) また、「判じ絵」の起源を調べたところ、平安時代後

■ 誤答例
 推進押 (し) (し) (し)
 □ 正答
 推 (し)

【中学校 問題4(3)】
 《現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのよう工夫されているかについて、古典と比較して書く問題》

三 【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】は、古典の作品である「竹取物語」に、作家の星新一が工夫を加えて現代語で書いたものです。どこがどのよう工夫されていると考えられますか。【授業で読んだ「竹取物語」の一部】や【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】の表現を取り上げて、あなたの考えを書きなさい。

□ 正答例
 ・「よろづのこと」を「笠、竿、策、籠、筆、箱、筒、箸」というように具体的に書いて、翁が竹でどのようなものを作っていたのかが分かるようにしている。
 ・「手なれた仕事だ。」と付け加えることで、竹を割る翁の様子を読者が想像できるようにしている。

【本市正答率】 50.2% (全国比+0.2)
 現代語訳などを活用して古典作品を楽しむこと、根拠を明確にして考えることに課題が見られる。中学生が楽しめるような現代語訳を適切に取り上げ、古典の楽しみ方を見いだすことができるようにするとともに、古典の原文と現代語訳を比較したり関係付けたりすることで、古典の原文やその作品の世界に興味・関心が向かうように指導することが大切である。

【本市正答率】 47.9% (全国比+4.0)
 文章に関する学習以外にも、「話すこと・聞くこと」の学習や、他教科等の学習、日常の会話など、様々な機会を通じて漢字の書きについて意識するよう指導することが大切である。また、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる習慣や辞書を引く習慣を身に付けさせ、1人1台端末等で文字を入力する際は、変換候補表示を参考にすることで、適切に選択できるように指導する必要がある。

(4) 児童・生徒質問紙との関連

「5年生までに(中学校は1・2年のときに)受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたか。」との質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向が見られた。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、さらに指導改善を進めていく必要がある。

「国語の勉強が好き」と回答した児童生徒は6割前後だが、「国語の勉強は大切」と回答した児童生徒は9割を超えた。

「読書が好きか」との問いに「当てはまる」と答えた児童生徒は「当てはまらない」と回答した児童生徒よりも平均正答率が高く、新聞を「ほぼ毎日読んでいる」と回答した児童生徒は「ほとんど、または全く読まない」と回答した児童生徒よりも平均正答率が高かった。学校図書館司書や家庭と連携しながら、活字に親しむ環境づくりが大切である。

(5) 授業改善のポイント

【小・中共通】

- カリキュラム・マネジメントの推進
 - ・ 明らかに変わった課題について、調査の対象学年や教科だけではなく、学校全体で共有し、系統性や教科横断的な指導を意識して、組織的な学習指導の改善・充実につなげる。
 - ・ 定着に課題がある指導事項を明確にし、年間指導計画等に反映させるなどして、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、定着を図る。
 - ・ 単元づくりにおいては、指導事項を身に付けるために適した言語活動を位置付け、指導事項を踏まえた評価規準を設定する。
- 児童生徒のつまずきに応じた指導
 - ・ 「解答類型」に表れた一人一人のつまずきを捉え、学習状況の改善を図る。

【小学校】

- ・ 書いた文章の感想や意見を友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けるなどの協働的な学びの充実を図る。

【中学校】

- ・ 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用する活動の充実を図る。

番号	質問内容	本市	全国比
小34	各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたか。	73.9	-0.5
中38		64.9	-4.2
小43	国語の勉強は好きか。	64.5	+3.0
中47		58.8	-2.6
小44	国語の勉強は大切か。	95.2	+1.0
中48		92.8	+0.4
小24	読書は好きか。	77.7	+5.9
中24		73.2	+7.2
小23	新聞をほぼ毎日読んでいる。	3.3	-1.0
中23		1.9	-0.6

2 調査の結果から見える本市算数・数学科教育の課題について

(1) 算数・数学科の調査結果

小学校は全国の平均正答率をやや下回り、中学校も、1.0ポイント程度下回った。

項	算数	数学
本市正答率(全国)	62 (62.5)	50 (51.0)
正答率全国比	-0.5	-1.0
本市中央値(全国)	10.0(11.0)	8.0 (8.0)

(2) 本市算数・数学科の課題

- 図形領域において、基本的な図形の概念や直線の位置関係について理解し、図形を構成する要素などに着目して図形の性質を考察することに課題が見られた。
- データの活用の領域においては、複数のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を説明すること、図形の領域においては、ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することなど、思考・判断・表現に課題が見られた。

	出題の趣旨 【正答率、全国との比較】
小学校・算数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 台形の意味や性質について理解している。 ② (1)【56.0、-3.8】 ・ (2位数) ÷ (1位数) の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考慮することができる。 ③ (4)【45.4、-2.2】 ・ 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。 ② (4)【28.5、+7.7】 ・ 示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できる。 ④ (3)【61.3、+5.1】
中学校・数学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を説明することができる。 ⑦ (2)【30.5、-3.1】 ・ ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる。 ⑨ (1)【27.4、-4.7】 ・ 自然数の意味を理解している。 ① 【47.3、+1.2】 ・ 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。 ⑥ (2)【63.6、+4.8】

(3) 課題を示す特徴的な問題

算数【問題②】(1)

(1) ゆいさんは、下のようにテープを直線で切って、⑤、③、②、④のような四角形をつくりました。

⑤、③、②、④について、どのような四角形なのかを、次のようにまとめます。

⑤、③、②、④はどれも **①** です。
なぜなら、**②** だからです。

上の①にあてはまるものを、下の 1 から 5 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。また、上の②にあてはまるものを、下の 6 から 10 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

	1	長方形
	2	正方形
①	3	台形
	4	平行四辺形
	5	ひし形
②		
	6	向かい合った2組の辺が平行な四角形
	7	向かい合った1組の辺が平行な四角形
	8	4つの辺の長さが等しい四角形
	9	向かい合った辺の長さが等しい四角形
	10	向かい合った角の大きさが等しい四角形

【本市正答率】 56.0% [全国比-3.8]

①で「台形」と答えた児童の割合は8割を超えたが、この8割の児童のうち、②の問題で「7」を選択できた児童は5割にとどまった。「6」を選択した児童が比較的多いことから、2つの辺が平行であることを誤って二組の辺が平行であると捉えていると考えられる。このことより、図形の学習において、図形を構成する要素などに着目して図形について一人一人が説明できるようにすることが大切である。

算数【問題③】(4)

(4) けんたさんは、66÷3の筆算について、次のように図を使って説明しました。

【66÷3の筆算】

手順1

$$\begin{array}{r} 3\overline{)66} \\ \underline{30} \\ 36 \\ \underline{30} \\ 6 \end{array}$$

手順2

$$\begin{array}{r} 2 \\ 3\overline{)66} \\ \underline{6} \\ 0 \end{array}$$

【けんたさんの説明】

10を①、1を②で表して、60について考えます。

$$\begin{array}{c} \text{①} \text{①} \text{①} \text{①} \text{①} \text{①} \\ \text{①} \text{①} \text{①} \text{①} \text{①} \text{①} \end{array}$$

6について考えます。

$$\begin{array}{c} \text{③} \text{③} \text{③} \text{③} \text{③} \text{③} \\ \text{①} \text{①} \text{①} \text{①} \text{①} \text{①} \end{array}$$

手順3

$$\begin{array}{r} 2 \\ 3\overline{)66} \\ \underline{6} \\ 0 \end{array}$$

手順4

$$\begin{array}{r} 22 \\ 3\overline{)66} \\ \underline{6} \\ 0 \end{array}$$

手順5

$$\begin{array}{r} 22 \\ 3\overline{)66} \\ \underline{6} \\ 0 \end{array}$$

【けんたさんの説明】をもとにすると、66÷3の計算を、下のよう
考えることもできます。

$$\begin{aligned} 66 \div 3 &= (\overset{\text{あ}}{60} + \overset{\text{う}}{6}) \div 3 \\ &= \overset{\text{あ}}{60 \div 3} + \overset{\text{う}}{6 \div 3} \\ &= \overset{\text{え}}{20} + \overset{\text{え}}{2} \\ &= 22 \end{aligned}$$

【66÷3の筆算】の手順2で上の位にたてた「2」は、上の式のあ、いう、えのどの計算をした結果を表していますか。1つ選んで、その記号を書きましょう。

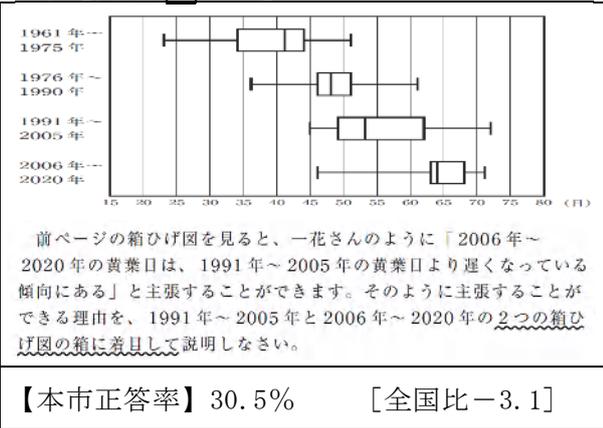
手順2

$$\begin{array}{r} 2 \\ 3\overline{)66} \\ \underline{6} \\ 0 \end{array}$$

【本市正答率】 45.4% [全国比-2.2]

「う」を選択した児童の割合が3割に上った。商が2になる式である6÷3に着目して答えたものと考えられる。数の相対的な大きさに着目しながら、筆算を具体物や図と関連付けて考える活動を取り入れた上で、計算技能の定着を図っていくことが大切である。

数学【問題 7】(2)



「黄葉日が以前に比べて遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、複数の箱ひげ図の箱の位置に着目して説明する問題であり、正答率は30.5%であった。指導にあたっては、複数のデータを比較してその傾向を読み取らせ判断させる活動が考えられる。また、判断の理由を数学的な表現を用いて説明させる活動も大切である。その際、日常生活や社会の事象を題材とした問題などを取り上げ、統計的に問題解決することができるように指導することも大切である。

数学【問題 9】(1)

① $\triangle ABC$ を置いて、直線BCをひく。そして、図2のように、 $\triangle DEF$ を回して、点Fを点Aに、点Dを点Cに重ねる。

図2

② 図3のように、点Aと点Fが重なった点をAとして、直線AEをひく。また、点Cと点Dが重なった点をCとする。

図3

(1) 優奈さんは、前ページの方法1の直線BCと直線AEが平行になるかどうかを調べるために、右の図6をかきました。図6の $\triangle ABC$ と $\triangle CEA$ は、それぞれ $CA = CB$ 、 $AC = AE$ で、 $\triangle ABC = \triangle CEA$ です。

図6

図6において、 $BC \parallel AE$ であることは、すでにわかっている $\triangle ABC = \triangle CEA$ をもとにして、同位角または錯角が等しいことを示すことで証明できます。 $BC \parallel AE$ であることを証明しなさい。

【本市正答率】 27.4% [全国比-4.7]

2つの直線が平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する問題であった。無答率も高く、25.4%であった。誤答のうち22.0%の生徒が結論のみを回答していた。構想を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できなかったと考えられる。指導にあたっては、結論を導くために必要な事柄を結論から逆向きに考えたり、仮定や仮定から導かれる事柄を明らかにした上で、さらに必要な情報を考え話し合う活動が考えられる。

(4) 児童・生徒質問紙との関連

【児童・生徒質問紙の結果】

- ① 算数・数学の勉強は好きですか。
- ② 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき、役に立つと思いますか。

	番号	本市(%)	全国(%)	全国比
算数	①	61.9	61.4	+0.5
	②	93.1	93.3	-0.2
数学	①	59.6	56.7	+2.9
	②	78.0	75.8	+2.2

(本市児童・生徒の「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合)

「算数・数学に対する興味・関心」について、小学校は全国を0.5ポイント上回り、中学校は2.9ポイント上回った。

「社会での有用性」について、小学校は全国を0.2ポイント下回り、中学校は、全国を2.2ポイント上回った。

これらのことより本市児童生徒は、数学的活動により算数・数学を学ぶよさを味わうとともに、算数・数学の問題発見・解決の過程において培われた数学的な見方・考え方が、身近な生活のみならず、社会の中での意思決定や判断を行っていく上で有効に働くことを実感できていると考えられる。

(5) 授業改善のポイント

ア 算数・数学共通

算数・数学の学習において、数学的な見方・考え方を働かせながら、問題解決を図るとともに、他教科の学習や日常生活と関連付け、数学的な見方・考え方を更に豊かなものにする。

イ 算数

○ 問題解決において、数学的な見方・考え方を働かせながら、どのように解決していくかを自分なりに選択・判断し、協働的な学びの中で数学的に表現し合い、試行錯誤しながら問題解決できる授業の展開を図る。

○ 日常生活場面を生かした課題を設定し、これまでに習得した数学的な見方・考え方を働かせながら問題解決することのよさを実感することができる授業を取り入れる。

ウ 数学

○ 解決の見通しを立て、根拠を明らかにして、予想した事柄が成り立つ理由を考えさせる授業や、分かったことを数学的に表現させる授業の展開を図る。

○ 自分の考えや他者の考えを記述としてまとめる授業の展開を図る。特に全国学力・学習状況調査では、「事実・事柄の説明」「方法の説明」「理由の説明」の3つの記述式問題が出題されていることにも留意し、学習過程に適切にそれらの記述を位置付けることが重要である。

3 調査の結果から見える本市英語教育の課題について

(1) 英語の調査結果

本市の平均正答率は、全国の前年調査を0.4ポイント上回った。

令和元年度と比較すると、全国比は1.6ポイント下がった。

本市正答率	46
全国前年調査	45.6
全国比 (R元)	+0.4 (+2.0)

領域別では「聞くこと」が全国比+0.4、「読むこと」が全国比+1.7、「書くこと」が全国比+0.4である。

(2) 本市英語の課題

- ・ 日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることに課題が見られた。
- ・ 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることに課題が見られた。
- ・ 社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことに課題が見られた。
- ・ 文法事項や言語の働きなどを理解して正確に書くことに課題が見られた。

出題の趣旨【正答率 全国との比較】

- ・ 日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる。

② 【60.5 - 0.6】

- ・ 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる。

③ 【39.9 - 1.3】

- ・ 社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる。

⑧(2) 【16.9 - 2.6】

- ・ 疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる。

⑨(1)② 【19.8 - 1.1】

(3) 課題を示す特徴的な問題

【問題 ②】

忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する問題

② (放送問題)

あなたは買物からの帰宅後、ショッピングセンターに傘を忘れたことに気が付きました。電話で問合せをしたところ、自動音声案内につながりました。流れてくる音声メッセージを聞き、あなたが選択すべき番号として最も適切なものを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。

(スクリプト)
This is ABC shopping center. Thank you for calling. How can we help you? If you want to know our opening hours, please choose number 1. If you want to join our shopping club, please choose number 2. If you lost something in our shopping center, please choose number 3. If you have any questions about shops and restaurants in our shopping center, please choose number 4.

【本市正答率】39.9% (全国比-1.3)

「忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞く」という目的を把握した上で、それらに関する語句や表現に着目して聞き取ることに課題があると考えられる。

【問題 ③】

バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する問題

③ (放送問題)

あなたはイングリッシュキャンプに参加しています。これから、2班のリーダーとして明日のバーベキューパーティーについて説明を聞くところです。説明を聞いたあと、質問が放送されます。質問の答えとして最も適切なものを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 1 To tell your group members about your group's job.
- 2 To make the fire and cook rice.
- 3 To cut the vegetables and the meat.
- 4 To cut the vegetables and set the tables.

(スクリプト)

Tomorrow, we will have a barbecue party. We have three groups. Each group has a job. Group leaders, don't forget to tell your group members about your group's job. Group 1, can you make the fire and cook rice? Groups 2 and 3, please cut the vegetables together. After you finish cutting the vegetables, Group 2 cut the meat, and Group 3 set the tables for all the groups. Do you have any questions? If you have any questions, please ask me later.

Question: What is your group's job at the barbecue party?

【本市正答率】 39.9% (全国比-1.3)

2班のリーダーとして説明を聞き、2班の仕事内容を聞き取ることができていないことが考えられる。日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して必要な情報を聞き取ることに課題がある。

【本市正答率】 19.8% (全国比-1.1)

何を尋ねるか理解できていても、疑問詞を正確に書くことができないことが考えられる。疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことに課題がある。

【問題 8 (2)】

ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く問題

8 英語の授業で、ブラウン先生が作成した文章が学習者用端末に送信されました。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?



(2) ブラウン先生の質問に対するあなたの考えと理由を英語で簡潔に書きなさい。

【本市正答率】 16.9% (全国比-2.6)

筆者の問いかけに対する自分の考えを書けても、その理由を書くことができないことが考えられる。社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことに課題がある。

【問題 9 (1) ②】

与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる問題

9 (1) 次の①、②について、例を参考にしながら、必要があれば()内の語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、それぞれ会話が成り立つように英文を完成させなさい。

② <友達同士の会話>

A: Oh, you have a new watch!

B: Yes, I got it yesterday.

A: (buy) the watch?

B: At a department store near the station.

(4) 生徒質問紙との関連

【生徒質問紙の結果 (%)】

(68) 1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか。

(69) 1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか。

番号	本市	全国	全国比(R元)
(68)	58.0	63.8	-5.8(-3.4)
(69)	72.6	78.7	-6.1(-1.0)

(本市児童・生徒の「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」割合)

「(68) 自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動」も「(69) まとまった内容を英語で発表する活動」も全国を下回っており、令和元年度よりも、全国との差が開いており、改善が必要である。

(5) 授業改善のポイント

聞くことの指導においては、必要な情報を聞き取るためには、話されることの全てを聞き取りようとするのではなく、自分にとって必要とする情報は何かを把握することが重要である。

書くことの指導においては、読んだことを基に自分の考えとその理由を書く際に、読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解したことを基に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて表現することが重要である。また、場面や状況に応じて正確に英文を書くためには、文脈から適切な文の形式や時制を判断することが大切である。その上で、意味内容の伝達のみにとどまるのではなく、生徒自身が英語表現の誤りに気付き、修正を加えながら正確さを高めていくことが必要である。

IV 児童生徒及び学校に対する質問紙調査〈抜粋〉

児童生徒及び学校に対する質問から特徴的なものを抜粋しました(単位は%)。
 空欄に貴校のデータを書き込み(入力)、全国や本市と比較してください。
 児童生徒に対する質問紙調査結果の空欄には、貴校の割合(%)を、学校質問紙調査結果の空欄には、①～④等の回答を書き込み(入力)、比較しましょう(エクセルデータをSee-Smile(配布物管理)でも配信します。)。
 □の中に【分析・対策】を簡潔に書きましょう(全て記入する必要なし(対策の重点化))。

- ・ 上段は、「よく行った」「どちらかといえば行った」等、肯定的な回答した割合
- ・ 下段は、肯定的な回答のうち「よく行った」と回答した割合
- ・ ↑は、昨年度と比較し、2ポイント以上上回っていたもの、↓は、2ポイント以上下回っていたもの(上段のみ)
- ・ ※は、昨年度、質問項目になかったもの

【児童生徒に対する質問紙調査結果〈抜粋〉】

基本的生活習慣等に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
1 朝食を毎日食べていますか		94.0	0.1		92.6	1.4
		83.5	-0.2		81.7	3.1
2 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか		80.0	-1.0	↓	80.4	2.4
		34.8	-3.3		34.8	0.1
3 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか		90.3	-0.2		93.0	1.7
		54.0	-1.1		58.7	3.9

【分析・対策】

挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
4 自分には、よいところがあると思いますか		↑ 80.7	-2.8		76.6	-3.4
		35.5	-7.1		30.8	-6.4
5 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか		↑ 87.3	-2.5	↑	84.5	-2.8
		41.6	-8.3		31.3	-8.7
※6 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか		93.7	0.7		85.9	-3.0
		60.5	-0.4		37.2	-6.5
7 将来の夢や目標を持っていますか		84.6	3.1		66.9	0.6
		65.1	4.3		42.7	3.3
8 人が困っているときは、進んで助けていますか		↑ 91.4	-0.2		89.1	1.0
		43.4	-2.2		37.4	-1.0
9 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか		96.8	-0.1		96.0	0.5
		82.0	-0.6		81.9	1.6
10 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか		65.5	-3.0		64.7	-1.7
		29.2	-4.2		27.0	-4.2

11	人の役に立つ人間になりたいと思いますか		95.6	-0.3		95.0	0.4
			75.0	-0.3		72.5	0.8
12	学校に行くのは楽しいと思いますか		87.2	1.9		83.7	1.9
			51.8	2.0		43.8	0.5
13	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか		↑ 77.6	1.1		77.9	0.3
			30.2	-1.8		30.0	-2.2
※14	友達関係に満足していますか		90.5	0.2		90.3	1.6
			62.2	-1.0		55.6	0.3
※15	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか		91.7	0.7		86.2	-0.6
			48.5	-1.4		37.1	-3.8

【分析・対策】

学習習慣等に関すること

質問事項	小学校			中学校			
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比	
16	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）		↓ 70.5	-0.2		58.7	3.7
			25.5	-3.2		16.1	0.8
17	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） ◆上段は、2時間以上と回答した割合 下段は、3時間以上と回答した割合 ※令和4年度とは選択肢が異なるため、比較はできません。		24.9	-0.7		36.8	3.1
			9.9	-1.9		9.4	-0.9
18	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） ◆上段は、3時間以上と回答した割合 下段は、4時間以上と回答した割合 ※令和4年度とは選択肢が異なるため、比較はできません。		11.1	-2.2		19.9	1.6
			5.5	-2.4		6.4	-0.4
※19	学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか（インターネットを通じて教わっている場合も含む） ◆1段目は、教わっていないと回答した割合 2段目は、学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を教わっていると回答した割合 3段目は、学校の勉強でよく分からなかった内容を教わっていると回答した割合		62.9	8.5		47.2	7.9
			17.2	-7.0		13.2	-7.2
			6.6	-0.2		10.0	0.5
20	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く） ◆上段は、1時間以上と回答した割合 下段は、2時間以上と回答した割合 ※令和4年度とは選択肢が異なるため、比較はできません。		20.4	1.9		16.0	2.2
			7.6	0.0		5.4	0.0
※21	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館（それぞれ電子図書館を含む）にどれくらい行きますか ◆上段は、週1回以上と回答した割合 下段は、週4回以上と回答した割合		19.2	5.8		15.0	8.0
			3.5	1.0		3.0	1.4
22	【小学校】あなたの家には、およそどれくらい本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く） 【中学校】あなたの家には、およそどれくらい本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除く） ◆1段目は、501冊以上と回答した割合 2段目は、201～500冊と回答した割合 3段目は、101～200冊と回答した割合 ※令和4年度とは選択肢が異なるため、比較はできません。		3.3	-1.0		2.5	-1.3
			10.1	-0.9		9.9	-1.9
			17.0	-0.9		16.9	-0.2

23	新聞を読んでいますか		11.1	-1.5		6.7	-1.4
			3.3	-1.0		1.9	-0.6
24	読書は好きですか		77.7	5.9		73.2	7.2
			43.1	3.7		41.1	5.9

【分析・対策】

地域や社会に関わる活動の状況等に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
25 今住んでいる地域の行事に参加していますか		55.0	-2.8		↓ 30.1	-7.9
		23.0	-1.3		8.9	-3.3
※26 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか		76.0	-0.8		63.2	-0.7
		30.6	-2.6		17.3	-2.3

【分析・対策】

国際理解に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
※27 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか		72.7	0.2		66.6	-0.2
		41.5	0.7		34.8	-0.1
※28 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか		78.8	0.7		65.2	2.0
		46.5	0.8		27.5	1.3

【分析・対策】

ICTを活用した学習状況に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
29 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		↑ 70.6	8.2		↑ 38.3	-22.8
		30.1	1.9		12.5	-15.6
30 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか		95.5	0.4		92.6	-0.7
		66.1	-1.4		56.3	-2.4
※31 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く） ◆上段は、2時間以上と回答した割合 下段は、3時間以上と回答した割合		6.6	-0.2		4.1	-0.9
		2.5	-0.4		1.3	-0.8

【分析・対策】

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の取組状況に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
32 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか		↓ 56.4	-7.3		49.8	-12.3
		20.6	-4.2		15.0	-6.9
33 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか		77.7	-1.1		77.6	-1.6
		27.5	-3.0		27.7	-2.7
34 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか		↑ 73.9	-0.5		64.9	-4.2
		26.5	-1.8		18.3	-4.4
35 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか		↑ 83.6	0.7		72.6	-2.3
		38.2	0.9		18.9	-3.7
36 学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか		81.4	-0.4		79.5	-0.2
		35.8	-2.8		31.2	-3.1
37 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか		78.7	-17.0	↓	68.9	-24.7
		30.7	1.3		22.4	-0.3
※38 授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか		82.1	0.2		66.6	-3.3
		38.3	-0.7		21.3	-2.7

【分析・対策】

総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
39 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか		77.7	2.9	↑	71.2	-1.4
		36.0	4.2		27.4	-1.5
40 あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会〔学級活動〕で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか		↑ 74.3	-2.9	↑	70.6	-7.3
		25.6	-6.2		21.4	-7.9
41 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか		↑ 74.0	-1.7		67.3	-4.3
		27.6	-3.0		21.8	-3.1
42 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか		82.2	-1.4		85.6	-0.7
		41.4	-2.9		43.5	-0.3

【分析・対策】

【学校質問紙調査結果〈抜粋〉】

生徒指導等

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
9 調査対象学年の児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか		↑ 93.4	5.8		↓ 89.7	-5.4
		30.7	-7.4		56.4	0.7
11 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか		↓ 92	5.5		100.0	1.4
		22.7	2.3		59.0	9.5
12 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか		↓ 92	-5.0		↑ 97.4	1.3
		45.3	-4.1		33.3	-11.3
13 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか		↓ 97.3	-1.6		97.4	-0.9
		49.3	-11.5		41.0	-13.8
※15 前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか		94.7	8.0		89.8	14.5
		72	16.2		46.2	2.7

【分析・対策】

学校運営に関する状況

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
※16 ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか		100.0	1.7		100.0	2.3
		34.7	5.8		15.4	-11.5
※17 ICTを活用した校務の効率化の一環として、クラウドを活用した校務の効率化（クラウドサービスを活用した保護者への連絡や、アンケートの実施、教職員等会議のオンライン化等）に取り組んでいますか		97.4	1.3		97.4	1.5
		34.7	-2.7		33.3	-4.2
※18 教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか		98.6	2.3		94.9	0.8
		53.3	11.0		38.5	-0.8
19 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか		↓ 96	-0.2		↑ 92.3	-2.9
		34.7	-4.5		25.6	-9.8
20 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか		↑ 100	4.5		↑ 92.3	3.8
		42.7	-0.5		20.5	-8.7

【分析・対策】

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
26 調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか		92	3.1		89.8	1.8
		21.3	-0.1		15.4	-3.8
27 調査対象学年の児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか		↑ 84	5.0		↑ 84.7	3.1
		12	-1.2		10.3	-4.3
28 調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか		↑ 86.7	-1.0		89.8	1.0
		14.7	-5.7		15.4	-6.8

29	調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりできていると思いますか		84	0.6		92.3	6.1
			16	-1.4		7.7	-12.6
30	調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか		↑ 93.4	2.0		↑ 100.0	4.0
			22.7	-10.5		28.2	-15.3
※31	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか		89.3	-3.8		94.8	3.9
			25.3	-2.5		17.9	-6.7
※32	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか		94.7	0.4		100.0	5.8
			24	-6.6		12.8	-15.9
33	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか		↓ 88	-2.4		↓ 92.3	5.3
			25.3	-5.0		15.4	-9.9
34	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか		↓ 88.0	-1.0		↑ 84.7	-3.0
			22.7	1.8		10.3	-9.3
35	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか		↑ 85.4	-0.2		↓ 76.9	-1.7
			14.7	-3.6		7.7	-6.3

【分析・対策】

総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳の指導方法

質問事項	小学校			中学校			
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比	
37	調査対象学年の児童生徒に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか		96	3.3		↓ 87.1	-5.0
			41.3	5.6		25.6	-12.4
38	調査対象学年の児童生徒に対して、学級生活をよりよくするために、学級会〔学級活動〕で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか		↓ 92	-2.3		100.0	6.1
			30.7	-7.4		20.5	-15.0
39	調査対象学年の児童生徒に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っていますか		94.7	1.6		↑ 97.4	5.4
			24	-8.4		20.5	-9.5
40	調査対象学年の児童生徒に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか		100	3.5		97.4	0.5
			38.7	2.5		28.2	-14.6

【分析・対策】

学習評価

質問事項	小学校			中学校			
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比	
※41	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習評価の方針を示した上で、児童の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かすことを心がけましたか		90.7	0.4		92.3	-3.9
			32	3.9		17.9	-22.0

【分析・対策】

国語科の指導方法に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
※42 調査対象学年の児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行いましたか		94.7	1.8		97.4	18.3
		24	-6.0		28.2	7.0
※43 調査対象学年の児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行いましたか		98.7	5.5		100.0	6.0
		24.0	-3.9		38.5	5.8
※44 【小学校】調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行いましたか 【中学校】調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行いましたか		98.7	6.3		100.0	6.0
		40	8.0		38.5	1.0
※45 【小学校】調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業を行いましたか 【中学校】調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行いましたか		96	-0.8		94.8	-3.7
		29.3	-7.6		41.0	-13.2

【分析・対策】

算数・数学科の指導方法に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
46 調査対象学年の児童生徒に対する算数〔数学〕の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか		↑ 93.3	1.2		↓ 89.7	1.7
		21.3	-5.5		17.9	-4.2
47 【小学校】調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行いましたか 【中学校】調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行いましたか		93.4	-1.2		↓ 82.1	-2.2
		30.7	-5.0		15.4	-6.8
48 【小学校】調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫していましたか 【中学校】調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫していましたか		100.0	2.1		↓ 94.9	-2.7
		48	2.9		35.9	-12.5

【分析・対策】

外国語の指導方法に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
※49 【小学校】学校として外国語教育の充実に取り組む上で、必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか 【中学校】調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点を捉える言語活動を行いましたか		81.3	9.5		100.0	5.8
		20	4.8		30.8	-7.6
※50 【小学校】英語の授業以外にも児童が英語に触れる機会（イングリッシュキャンプ、English Day、昼休みの英語での放送等）をどの程度設けていますか 【中学校】調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点を捉える言語活動を行いましたか		26.7	12.7		100.0	3.9
		12	5.4		30.8	-12.2
※51 【小学校】家庭学習の課題（宿題）として、児童にPC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の学習をどの程度行わせていますか 【中学校】調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行いましたか		2.7	-1.4		82.1	5.3
		0	-1.6		10.3	-13.4

【分析・対策】

ICTを活用した学習状況に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
小52 前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか		93.3	4.8		82.0	-7.1
中60 ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		80	7.3		48.7	-23.1
小53 教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか	↑	100	4.1	↑	100.0	8.5
中61		78.7	13.6		64.1	9.8
※小54 コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか		89.3	1.9		97.4	14.9
※中62		37.3	-0.4		35.9	5.1
小55 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか	↑	96.0	5.4	↑	69.2	-17.5
中63 ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		84.0	18.8		35.9	-26.7
小56 調査対象学年の児童生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	↑	86.6	16.6	↑	51.3	-13.3
中64 ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		45.3	16.2		10.3	-18.6
小57 調査対象学年の児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	↑	76	30.2	↑	43.6	-0.6
中65 ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		34.7	17.9		12.8	-3.1
小58 教職員と調査対象学年の児童生徒がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	↑	81.3	28.2	↑	38.4	-10.3
中66 ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		49.3	20.0		17.9	-7.0
小59 調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	↑	64	24.0	↑	30.7	-3.0
中67 ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		33.3	16.9		12.8	0.4
※小60 調査対象学年の児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか		62.7	17.7		41.0	5.3
※中68 ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		22.7	6.7		5.1	-7.1

小61 中69	前年度に、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、児童生徒が学校外の施設（他の学校や社会教育施設、民間企業等）にいる人々とやりとりする取組をどの程度実施しましたか ◆上段は、月1回以上と回答した割合 下段は、週1回以上と回答した割合	↓	2.7	-2.3	↑	10.3	4.5
			0	-1.1		2.6	1.0
小62 中70	教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用していますか	↑	60.0	-2.8	↑	48.7	-12.9
			21.3	-6.4		7.7	-18.4
小63 中71	児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか ◆1段は、毎日持ち帰って、毎日利用させている 2段は、毎日持ち帰って、時々利用させている 3段は、時々持ち帰って、時々利用させている 4段は、持ち帰らせていない 5段は、持ち帰ってはいけないこととしている 6段は、臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしていると回答した割合	↑	10.7	-7.9	↑	10.3	-12.3
			2.7	-11.2	↑	2.6	-15.7
		↑	77.3	28.5	↑	33.3	-2.7
			8	0.1	↓	33.3	23.3
			0.0	-1.5	↓	0.0	-2.3
		↓	1.3	-7.9	↓	20.5	9.7
小64-1 中72-1	児童[生徒]一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（1）不登校児童に対する学習活動等の支援 ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合	↑	38.7	10.0	↑	30.8	-7.3
			22.7	4.7		20.5	-4.8
小64-2 中72-2	児童[生徒]一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（2）特別な支援を要する児童に対する学習活動等の支援 ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合	↑	66.6	16.6	↑	41.0	-3.7
			41.3	10.0		15.4	-12.3
※小64-3 ※中72-3	児童[生徒]一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（3）外国人児童に対する学習活動等の支援 ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		4	-8.5		7.7	-4.0
			2.7	-5.3		5.1	-2.5
※小64-4 ※中72-4	児童[生徒]一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（4）児童の心身の状況の把握 ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		17.3	-14.0		15.4	-15.5
			17.3	-11.3		12.8	-15.2
※小64-5 ※中72-5	児童[生徒]一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（5）児童に対するオンラインを活用した相談・支援 ◆上段は、週3回以上と回答した割合 下段は、ほぼ毎日と回答した割合		2.6	-6.0		5.1	-6.4
			1.3	-4.7		0.0	-7.8

【分析・対策】

特別支援教育に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
※小65 ※中73		18.7	2.7		12.8	-0.6
		8	3.1		5.1	0.7
小66 中74		↓ 94.7	-0.2		↓ 92.3	-1.8
		44	0.1		41.0	-2.7

【分析・対策】

小学校教育と中学校教育の連携に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
小67 中75 前年度までに、近隣等の中学校〔小学校〕と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか		↑ 78.7	18.1		↑ 84.7	17.9
		22.7	4.2		10.3	-14.7
小68 中76 前年度までに、近隣等の中学校〔小学校〕と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか		↑ 62.6	4.4		↑ 84.6	17.3
		17.3	-1.7		17.9	-9.7
小69 中77 令和4年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校〔小学校〕と成果や課題を共有しましたか		↓ 49.3	-4.3		↑ 53.9	-0.8
		8	-7.0		7.7	-10.6

【分析・対策】

地域連携に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
※小72 ※中80 保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加していますか		97.3	1.4		84.6	2.5
		68.0	11.5		23.1	-3.3
※小73 ※中81 (72)の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による取組は、教員の業務負担軽減に効果がありましたか		86.7	7.9		64.1	3.4
		30.7	5.9		7.7	-4.2
※小74 ※中82 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか		93.4	7.3		82.1	2.8
		26.7	-0.6		0.0	-19.4

【分析・対策】

家庭学習に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
※小75 ※中83 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか		94.7	3.9		97.4	12.8
		46.7	7.1		33.3	3.6
小76 中84 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか		100	4.3		97.4	6.5
		46.7	2.7		28.2	-2.7
小77 中85 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしましたか		96	5.4		↑ 97.5	13.1
		33.3	2.8		15.4	-6.2

【分析・対策】

全国学力・学習状況調査の結果等の活用に関すること

質問事項	小学校			中学校		
	本校	鹿児島市	全国比	本校	鹿児島市	全国比
小78 中86 令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか		100	4.0		↑ 100.0	7.0
		48	14.9		10.3	-14.4
小79 中87 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか		100	7.8		↓ 94.9	6.8
		40	8.2		30.8	6.8
小80 中88 令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）		100	12.0		↓ 94.9	13.8
		57.3	34.5		30.8	10.3

【分析・対策】